

【中小】令和元年度 1 次試験解答講評

1. はじめに

令和元年度中小企業診断士 第1次試験が8月3日（土）、4日（日）に実施されました。受験された皆さま、大変お疲れさまでした。

各科目の解答については、一般社団法人中小企業診断協会のホームページに公表されていますのでご確認ください。

令和元年度 中小企業診断士第1次試験の正解と配点（中小企業診断協会）

https://www.j-smeca.jp/contents/010_c /010_c_h31_shiken/R01_1ji_shiken_kaitou.html

2. 科目別分野別難易度

本年度、本試験の科目別・分野別難易度は下表のとおりです。

科目名	科目全体の難易度	分野名	分野ごとの難易度
経済学・経済政策	標準	マクロ経済学（10問）	標準
		ミクロ経済学（15問）	やや難
財務・会計	標準	財務会計（9問）	やや難
		管理会計（4問）	標準
		ファイナンス（12問）	やや易
企業経営理論	標準	経営戦略論（13問）	やや易
		組織論（14問）	やや難
		マーケティング論（14問）	標準
運営管理	標準	生産管理（22問）	やや易
		店舗販売管理（22問）	やや難
経営法務	やや難	民法・その他（11問）	やや難
		知的財産権（8問）	やや難
		会社法（6問）	標準
経営情報システム	やや易	情報通信技術（13問）	やや易
		経営情報管理（12問）	やや易
中小企業経営・政策	標準	中小企業経営（21問）	やや易
		中小企業政策（21問）	やや難

※テキスト・問題集・過去問3年分を解いていれば標準的に解ける問題の数により判定

3. この問題は必ず得点！

本年度の本試験で、確実に得点していただきたい問題は下表のとおりです。

科目名	分野名	得点したい基本問題
経済学・経済政策	マクロ経済学（5問）	第1問、第4問、第5問（設問1・2）、 第6問
	ミクロ経済学（5問）	第10問、第12問、第15問（設問1・2）、 第18問（設問1）
財務・会計	財務会計（1問）	第12問
	管理会計（3問）	第10問、第11問（設問1・2）
	ファイナンス（6問）	第13問、第15問、第17問、第19問、 第20問、第21問
企業経営理論	経営戦略論（7問）	第2問、第5問、第7問 第8問（設問1・2）、第9問、第10問
	組織論（3問）	第14問、第20問（設問2）、第22問
	マーケティング論（6問）	第28問、第30問（設問2）、 第31問（設問1・2）、第32問（設問1） 第34問
運営管理	生産管理（9問）	第1問、第2問、第6問、第7問、第9問 第11問、第13問、第17問、第21問
	店舗販売管理（9問）	第28問、第33問、第34問、第35問 第36問、第37問、第39問、第40問 第41問
経営法務	民法・その他（3問）	第4問、第16問（設問2）、第21問
	知的財産権（3問）	第9問（設問2）、第13問、第15問
	会社法（4問）	第1問、第2問、第3問、第5問
経営情報システム	情報通信技術（7問）	第2問、第4問、第6問、第8問、第11問、 第12問、第13問
	経営情報管理（4問）	第19問、第20問、第22問、第23問
中小企業経営・政策	中小企業経営（11問）	第1問（設問1・2）、第2問（設問1・2・3）、 第4問（設問2）、第6問（設問2）、 第9問（設問1・2）、第11問、第12問
	中小企業政策（8問）	第13問（設問1・2）、第15問（設問2）、 第16問（設問1・2）、第18問（設問1・2）、 第19問

4. 科目別試験傾向の分析

経済学・経済政策

経済学理論を理解しているかを問うためにグラフや数式を用いた問題が中心でありながら、経済学諸理論や経済政策への適用も要所に問われる今日的な経済学・経済政策に関する出題傾向となっています。出題分野は例年どおりで、しっかり基本を理解して応用力がある受験生は高得点を獲得できたのではないのでしょうか。経済学の基礎理論を理解したうえで、考える力やグラフ・表を読む力が必要となります。

財務・会計

前年度より易しめな印象です。特にファイナンスは、テキストを理解していれば解ける問題が多かったので、8~10問は正解したいところです。財務会計は例年どおり未学習論点が出ていますが、第3問や第8問はテキストの範囲内で正解できました。日頃の問題演習を通じて正確な知識が身につけていれば、十分合格可能だったと思われるます。

企業経営理論

全体の難易度は標準レベルで合格を狙えました。論点別では、経営戦略論は定番の理論が多く出題され得点しやすいものでした。組織論は例年通り3分野で最も難しく、組織変革で長文の事例問題が出たことは特徴的でした。マーケティング論はBtoBマーケティングやデジタル・マーケティングなどは従来あまり見られませんでした。選択肢の文意から正答を選ぶことはしやすかったと思われるます。

運営管理

全体の難易度は標準レベルといえます。分野別では、生産管理が例年より易しく、販売管理が難しかったといえます。生産管理は基本的な問題が7割近くを占めており、テキストを理解していれば高得点可能でした。販売管理は、調査や法律などテキスト外からの出題が多く対応が難しかったといえます。物流や販売情報は基本的な問題が出題されたので、これらを確実に得点することが重要でしょう。

経営法務

知的財産法分野と会社法分野からの出題が、前年度よりも2問減少し、民法・その他の分野が2問増加しました。さらに、前年度と比べれば、全体の難易度は下がりましたが、範囲が広く対策が手薄になりがちな民法・その他の分野の出題数が増加したこともあり、合格点を取るには相当の実力が必要だったと思われるます。

経営情報システム

前年度に引き続き、情報通信技術、経営情報管理とも難易度は低めで平均点は6割前後と考えられます。また、しばらく出題の無かった「適切なものの組み合わせを選ぶ」問題が5問程度あり解きにくかった半面、一読しただけで正誤が判断できる問題も多くあったため、全体的には苦勞することなくこの科目を終えた受験者が多かったと思われるます。

中小企業経営・中小企業政策

例年同様、中小企業経営、中小企業政策ともに設問数21問（各50点）で、全体の難易度は標準的でした。中小企業経営は『白書』を中心とした学習で十分に対応できるやや易しい内容でした。一方、中小企業政策ではこれまで出題されることがないテーマが数問出され、また、ベーシックな問題も出題パターンが変則的だったことからやや難しいと感じられたかもしれません。